学校番号	102

平成３１年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「新編古典Ｂ」　（東京書籍）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・有名な古文と漢文の作品に親しむとともに、正しく心情などを理解するために、語彙力や文法の知識・古典常識などをしっかりと身につけてください。
・授業の後には内容を振り返って復習してください。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

２　学習の到達目標

・古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広め、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
・言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することができる。
・伝統的な言語文化に関する関心を持ち、国語を尊重する態度を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身につけている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、 プリント等）			記述の確認及び分析（ノート、プリント等） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、 プリント等） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随筆を味わう	『方丈記』 ・「安元の大火」	○			◎	○	a:文章に描かれている内容を本文に即して把握しようとしている。 d:内容を本文に即して把握し、登場する人物の人間関係や人物像などについて理解している。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。	a、行動の観察及び記述の点検 d、記述の確認と分析、定期考査 e、行動の観察及び記述の確認
	物語を楽しむ	『伊勢物語』 ・「東下り」 『大和物語』 ・「生田川」	○			◎	○	a:文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手がかりとしようとしている。 d:文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。	a、行動の観察及び記述の点検 d、記述の確認と分析、定期考査 e、行動の観察及び記述の確認
2学期	小話を読む・古詩を味わう	『十八史略』 ・「鼓腹撃壌」 ・「燕雀安知鴻鵠之志哉」 『白氏長慶集』 ・「長恨歌」	○			◎	○	a:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の内容を的確に捉えようとしている。 d:考えの進め方や、情景や心情の推移など、文章の内容を的確に捉えている。 e:漢文を読むことに役立つ、訓読の決まりを身につけている。	a、行動の観察及び記述の点検 d、記述の確認と分析、定期考査 e、行動の観察及び記述の確認

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
2学期	物語を味わう	『源氏物語』 ・「若紫」	○			◎	○	a: 人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉えようとしている。 d:人物、情景などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、登場人物のそれぞれの場面における心情を読み取っている。 e:古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。	a、行動の観察及び記述の点検 d、記述の確認と分析、定期考査 e、行動の観察及び記述の確認
3学期	歴史物語を読む	『大鏡』 ・「道真の左遷」 ・「道長、伊周の競射」	○			◎	○	a: 文章に描かれた人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。 d: 文章に描かれた人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。	a、行動の観察及び記述の点検 d、記述の確認と分析、定期考査 e、行動の観察及び記述の確認

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち、「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置づけて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域に関わる観点には◎を付している。